

○団体概要は、パンフレットの116ページを御参照ください。

事業実施概要

事業名	ともに学ぶ日本語学習支援事業	
地域の課題	川崎市南部の幸区およびその近隣に居住する外国につながる子どもたちやその保護者、外国人市民は、国籍も多岐に渡る上、分散して居住している。同国人によるコミュニティも少なく、日本の教育制度・教育内容、子育てなどに関する情報も十分でない。特に日本語でのコミュニケーションや多文化環境での子育てに関する知識が十分でない保護者に対しては、バイリンガル外国人市民の活用が有効で、その育成が必要である。	
事業の目的	外国人も日本人も、対話型作文活動のプロセスや対話による地域の生活情報を学ぶ日本語学習活動を通して、対話力・共感力を磨き、地域社会をともに生きる市民同士がよりよく生きていくための関係性や環境の改善を学ぶ場とする。	
事業内容	取組1	
	名称	デジタル・ストーリーテリング (DST) による日本語支援事業
	目的	対話による DST 作品制作のプロセスで自尊感情を高めるとともに自分のことを語る日本語表現のレベルアップを図る。上映会・対話会で言語的マイノリティーのかかえる課題について地域住民や行政職員、教育関係者などとともに考える。
	内容	①<グループ対話(ストーリーサークル)>テーマを決め経験や思いを語る。話を聞いた後対話を行う。②<対話型作文活動>サポーターと対話しながら、マインドマップ・付箋紙で整理後、文章構成。800字程度の作文を書き、推敲③<音読・録音>音読練習し、自分の声で録音④<編集>編集ソフトを利用して写真などの画像・BGMを編集⑤<上映会・対話会>制作者間で試写。地域住民や行政職員などに向けて実施。
	対象	外国につながる子どもたちや保護者、外国人市民、地域の日本人市民、行政職員など
	時間	1回 3時間×14回(全42時間)
	人数	107人
	取組2	
	名称	「やさしい日本語」学習支援事業
	目的	日本の制度や習慣を知り、やさしい日本語に言い換えるプロセスでともに学びあう。
	内容	①外国人市民も日本人市民も『やさしい日本語』について学ぶ。②保健師や養護教諭を招き、外国人市民も地域住民も学ぶ。③保護者向けの文書や子どもの権利条例を地域住民とピアで『やさしい日本語』にする。④学習の成果を関係行政機関に提供するとともに、ワークショップ等で地域住民への理解を進める。
	対象	川崎市南部に居住する外国人市民および日本人市民及びその子どもたち
	時間	9:30~12:00(2.5時間×8回)
	人数	19人
連携体制	NPO日本語教科学習支援ネット、川崎市地域日本語教育推進協議会、川崎市総合教育センター、幸区役所、幸区多文化共生推進事業実行委員会、幸区子ども学習サポート、幸市民館日本語ボランティア、にほんごワールド、幸国際子育てクラブトントンなどの機関・団体、専門家	
成果と課題	取組1については、対話型作文活動を取り入れた DST 制作により、外国人市民の自己表現の場が作れ、これを契機にさらに多くの方に出来上がった作品を見てもらい、各自の話をして、人に聞いてもらう(認めてもらう)機会を多く作りたい。多くの人に見てもらうことで、言語的マイノリティーの持つ課題を地域住民や行政や教育関係者も共有でき、ともに課題解決に向かう契機とすることができる。	
皆様へ一言	この活動に関わった全ての人が、サポートのあり方や、人生そのものを考えさせられ、刺激を受けるインパクトがあります。今年もすばらしい作品ができそうです。来年2月に上映会を開きますので、ぜひ、作品を御覧になってください。	